

2.3. ケーススタディ：「だ」と「か」の分布について

2.3.1. 出発点となる minimal pair

- (1) a. この問題はやさしい。
b. この問題は簡単だ。
- (2) a. この問題（は）やさしい？
b. *この問題（は）簡単だ？

2.3.2. 思いつきを形にする

- (3) 文末にくるもののテスト：
 - a. 明日、来る？
 - b. 昨日、来た？
 - c. 明日、来ます？
 - d. 昨日、来ました？
 - e. この本、高い？
 - f. この本、高かった？
 - g. *この部屋、静かだ？
 - h. この部屋、静かだった？
 - i. *この部屋、静かである？
 - j. *この部屋、静かであった？
 - k. ??この部屋、静かです？
 - l. この部屋、静かでした？
 - m. この部屋、静か？
 - n. *あの、フランス人だ？
 - o. あの、フランス人だった？
 - p. *あの、フランス人である？
 - q. *あの、フランス人であった？
 - r. ??あの、フランス人です？
 - s. あの、フランス人でした？
 - t. あの、フランス人？
 - u. *今日、休講なんだ？
 - v. 今日、休講なんだった？
- (4) Generalization 1-1:
(2)のような疑問文の場合、文末が「だ/である/であった/です」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。（ただし、文末が「です」の場合は語彙差・個人差が大きい。）

2.3.3. 新しい例文を見つけて「正解」に近づいていく

- (5) Generalization 1-1 の反例：
 - a. 何だ？
 - b. 誰だ？
 - c. どの問題が一番簡単なんだ？
- (6) 文末にくるものによる違い（疑問語をふくんでいる場合）：
 - (7) Generalization 2-1:
 - (i) (2)のような疑問文で疑問語をふくんでいない場合、文末が「だ/である/であった/です」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。（ただし、文末が「です」の場合は語彙差・個人差が大きい。）
 - (ii) (2)のような疑問文で疑問語をふくんでいる場合、文末が「である/であった」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。

2.3.4. generalization の表現を吟味して「正解」に近づく

「疑問語をふくまない疑問文/疑問語をふくんだ疑問文」をそれぞれ「真偽疑問文/疑問語疑問文」におきかえるとどうなるか調べてみる。

(8) Generalization 2-2:

- (i) (2)のような真偽疑問文の場合、文末が「だ/である/であった/です」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。(ただし、文末が「です」の場合は語彙差・個人差が大きい。)
- (ii) (2)のような疑問語疑問文の場合、文末が「である/であった」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。

(9) 疑問語をふくんだ真偽疑問文:

- a. 誰が来たか知っていますか?
- b. どの問題が一番簡単なのか聞かなかったのですか?

(10) 疑問語をふくんだ真偽疑問文のテスト:

(11) 確認：複文の疑問語疑問文のテスト:

(12) Generalization 2-3:

- 「か」のない疑問文では、
- (i) 真偽疑問文の場合、文末が「だ/である/であった/です」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。(ただし、文末が「です」の場合は語彙差・個人差が大きい。)
 - (ii) 疑問語疑問文の場合、文末が「である/であった」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。

(13) 「か」のある真偽疑問文のテスト:

疑問語疑問文の場合には、判断に困るものがある。例えば、「いつ来るか?」という文は上昇調のイントネーションで読むと容認可能性が低いですが、下降調のイントネーションで読めば容認可能である。しかし、下降調のイントネーションで読んだ場合は自問型にしかならないのに対し

て、今までの例文はすべて質問型である。したがって、この文は、疑問文としては容認可能であるが、質問型の疑問文としては容認不可能ということになる。ここでは仮に、疑問文として容認可能かどうかを問題にすることとし、自問型としてしか容認できない文には「#」という印をつけておくことにする。

(14) 「か」のある疑問語疑問文のテスト:

(15) Generalization 3:

- 「か」のある疑問文では、
- (i) 真偽疑問文の場合、文末が「だ/である」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。(ただし、文末が「であった」の場合は現代日本語としては、かなり不自然となる。)
 - (ii) 疑問語疑問文の場合、文末が「だ」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。(ただし、普通体の場合は自問型としてしか容認できない。)
- 「か」のない疑問文では、
- (i) 真偽疑問文の場合、文末が「だ/である/であった/です」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。(ただし、文末が「です」の場合は語彙差・個人差が大きい。)
 - (ii) 疑問語疑問文の場合、文末が「である/であった」なら容認不可能となり、そうでなければ容認可能となる。

(16) 埋め込まれた真偽疑問文 (= 選択疑問文) のテスト:

(17) 埋め込まれた疑問語疑問文のテスト:

(18) Generalization 4: